

第4回マガキ大量死に関する連絡協議会

令和7年度オープンイノベーション研究・実用化推進事業のうち緊急対応課題

「養殖マガキの大量へい死の発生状況等の調査、原因究明と対策にかかる緊急研究」(R7-8)

中間報告



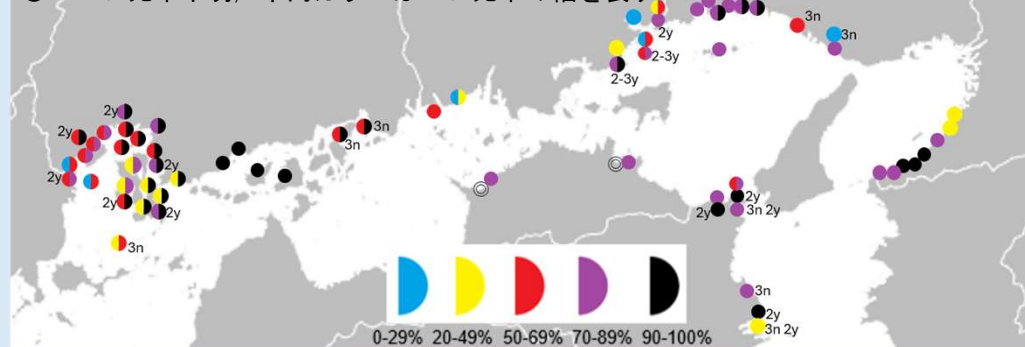
R7カキ大量へい死時における海洋環境の特徴

- ・水温：7～10月に平年より高く、**過去最長の海洋熱波を記録**
⇒ **多くの海域で共通のへい死要因**と推定
- ・溶存酸素：広島湾北部9～10月に貧酸素化進行
⇒ **へい死要因の一つ**と推定
- ・高塩分・低クロフィル（エサ指標）の海域でへい死率が高い傾向
⇒ へい死との関連は検討中

瀬戸内海におけるへい死率の分布 (ヒアリング調査結果を整理)

表示なし：1年貝（R6採苗），2y：2年貝，3n：3倍体，

◎：へい死率不明，半円カラーはへい死率の幅を表す



R8カキ垂下養殖試験の状況（呉、廿日市：8月下旬時点）

- ・カキ大量へい死の兆候は見られない
- ・表層水温：両海域ともに、7月下旬から8月上旬にかけて、昨年度の水温を上回る期間を断続的に確認
⇒ **水温の変動と、へい死の発生状況を注視する必要がある**
- ・塩分：6月下旬の降雨により低下
- ・貧酸素：確認されていない
- ・**大量へい死が発生した場合に備え、カキの生理状態等について、**
精確な情報の把握が出来る研究・調査体制を整備

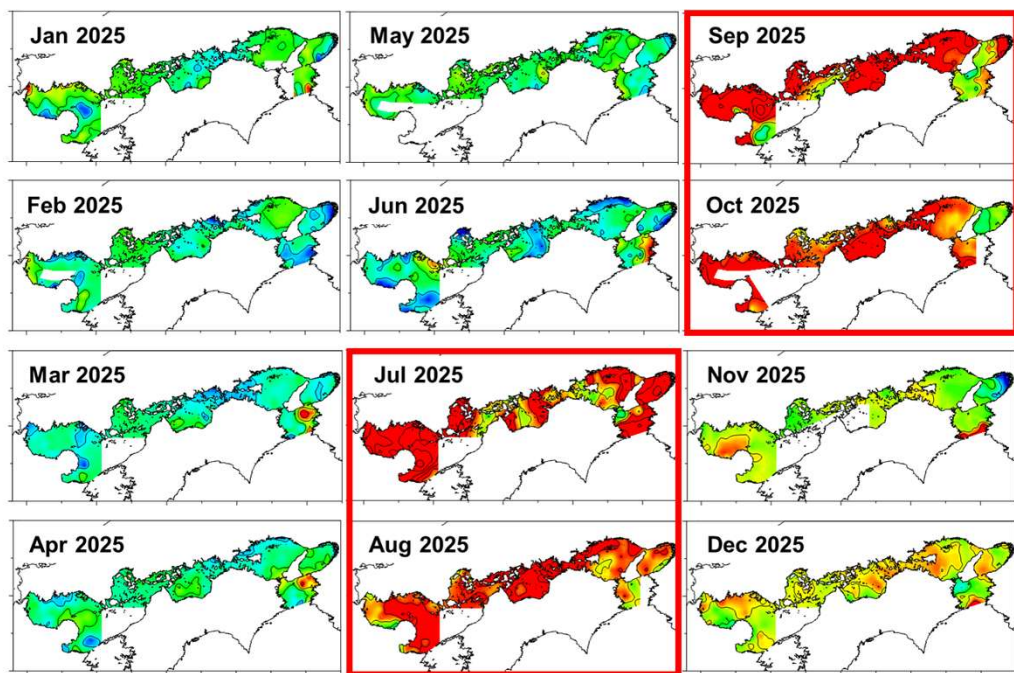


供試カキ軟体部。
発達した生殖巣が確認され、
成熟度が高い。

【参考資料】

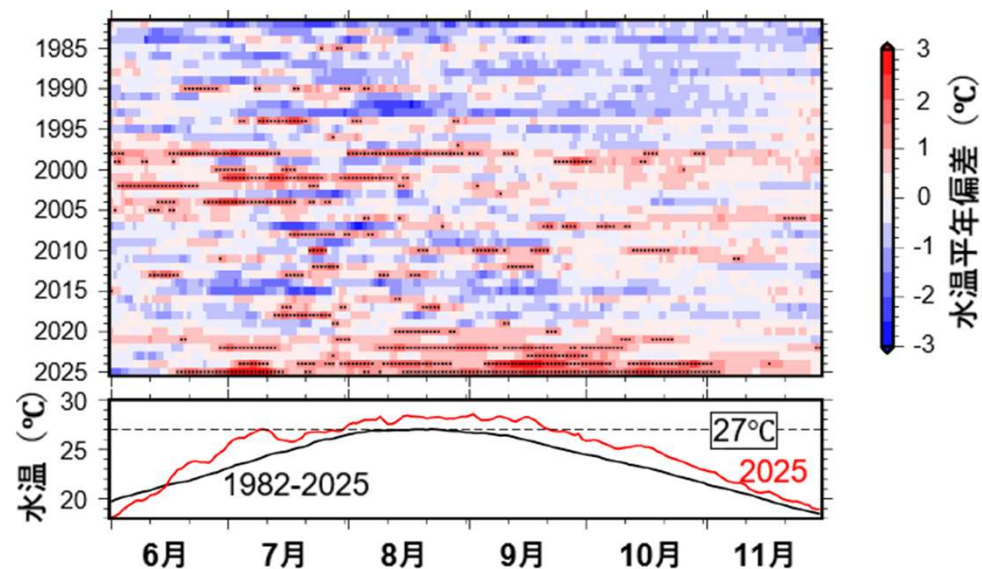
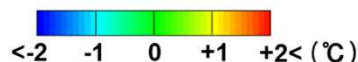
海洋熱波（MHW: Marine heatwave）とは

30年間以上のデータの平年分布に基づく90パーセンタイル値（上位10%閾値）を超える
高水温が5日以上継続する現象（e.g. Hobday et al. 2016 Prog Oceanogr）



瀬戸内海ブロック令和7年度
浅海定線観測等担当者会議資料より抜粋

表層水温の平年偏差



瀬戸内海（全域平均）の6～11月の海洋熱波検出結果
（Aoki & Onitsuka 2026 Reg Stud Mar Sci）

2025年は7～10月に広域で高水温が継続

平年偏差が90パーセンタイル値（+1.1°C）
を超えた日数が2025年は1982年以降で最多